

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: メトキシフェノジド
SDS コード	: V7-20
供給者の会社名称	:
林純薬工業株式会社	
住所	: 大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号
電話番号	: 06-6910-7305
E-mail	: shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL	: https://direct.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	: 06-6910-7305
推奨用途	: 試験研究用
使用上の制限	: 試験研究以外の用途には使用しない事。人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事。環境中に使用しない事。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高压ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過氧化物	区分に該当しない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
	急性毒性 (経皮)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	分類できない
	急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分に該当しない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	区分に該当しない
	発がん性	区分に該当しない

環境に対する有害性	生殖毒性	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期（急性）	分類できない
	水生環境有害性 長期（慢性）	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：化学物質

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
メトキシフェノジド	≥95%	C22H28N2O3	-	4-(7)-2520	161050-58-4

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。
上記濃度又は濃度範囲に記載の％は、個別表記があるものを除き、全て重量％となります。

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合： 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
多量の水と石鹼で優しく洗うこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合： 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい
て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤： 周辺火災に応じて、適切な消火剤を使用する。
- 使ってはならない消火剤： 強い水流は使用しない。
- 火災時の危険有害性分解生成物： 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法： 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に
消火する。
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。
- 消火時の保護具： 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置： 作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な
保護具を着用し、風下で作業行わない。
- 環境に対する注意事項： 環境への放出を避けること。
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移動する。
回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意**取扱い**

- 技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。

- 安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗いうがいをすること。
作業所の十分な換気を確保する。
接触、吸入又は飲み込まないこと。

- 接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。

保管

- 安全な保管条件 : 直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。
安全な容器包装材料 : 遮光した気密容器。
技術的対策 : 適用法令を遵守する。
保管温度 : 冷蔵保管: 2～10℃

8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

- 皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、不浸透性長靴
眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
手の保護具 : 不浸透性保護手袋
呼吸用保護具 : 防塵マスク

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 固体
外観 : 固体
色 : 白色
臭い : 無臭
pH : データなし
融点 : 204 – 206 ° C
凝固点 : データなし
沸点 : データなし
引火点 : データなし
自然発火点 : データなし
分解温度 : 240 ° C
可燃性 : データなし
蒸気圧 : $<1.3 \times 10^{-5}$ Pa (25℃)
相対密度 : データなし
密度 : 1.2 g/cm³ (25℃)
相対ガス密度 : データなし

溶解度	: アセトンに可溶。シクロヘキサノンに可溶。ジメチルスルホキシドに可溶。 水: 3.3 mg/l (20°C)
n-オクタノール/水分配係数(Log Pow)	: 3.72 (24.7±1.4°C)
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の取扱い条件では安定である。
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: 日光、熱
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 窒素酸化物

11. 有害性情報

メトキシフェノジド	
急性毒性 (経口)	【分類根拠】(1)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ラットの LD50:> 5,000 mg/kg(食安委 農薬評価書 (2018)、農薬抄録 (2010))
急性毒性 (経皮)	【分類根拠】(1)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ラットの LD50:> 5,000 mg/kg(食安委 農薬評価書 (2018)、農薬抄録 (2010))
急性毒性 (吸入:気体)	【分類根拠】GHS の定義における固体であり、区分に該当しない。
急性毒性 (吸入:蒸気)	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	【分類根拠】(1)より、区分 4 上限付近の用量における影響が不明のため、分類できない。【参考データ等】(1)ラットの LC50(4 時間):> 4.3 mg/L (粉塵)(食安委 農薬評価書 (2018)、農薬抄録 (2010))
急性毒性 (吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性／刺激性	【分類根拠】(1)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ウサギ(n=6)を用いた皮膚刺激性試験(GLP、半閉塞、4 時間適用、72 時間観察)において、全例で刺激性変化はみられなかった(紅斑・痂皮スコア:0/0/0/0/0/0、浮腫スコア:0/0/0/0/0/0)との報告がある(食安委 農薬評価書 (2018)、JMPR (2003)、農薬抄録 (2010))。
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	【分類根拠】(1)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ウサギ(n=6)を用いた眼刺激性試験(GLP、72 時間観察)において、1 時間後に結膜の発赤、浮腫及び分泌物がみられたが、24 時間後には消失した(角膜混濁スコア:0/0/0/0/0/0、虹彩炎スコア:0/0/0/0/0/0、結膜発赤スコア:0/0/0/0/0/0、結膜浮腫スコア:0/0/0/0/0/0)との報告がある(食安委 農薬評価書 (2018)、JMPR (2003)、農薬抄録 (2010))。
呼吸器感受性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	【分類根拠】(1)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)モルモット(n=20)を用いた Maximisation 試験(GLP、皮内投与:5%溶液)において、惹起貼付除去 24、48 時間後の陽性率はともに 0%(0/20 例)であったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2018)、JMPR (2003)、農薬抄録 (2010))。
生殖細胞変異原性	【分類根拠】(1)～(4)より区分に該当しない。【根拠データ】(1)マウスの骨髄細胞を用いた小核試験(単回経口投与)において陰性の報告がある(食安委 農薬評価書 (2018)、農薬抄録 (2010)、HSDB (Accessed Dec. 2020))。(2)細菌復帰突然変異試験において陰性の報告がある(食安委 農薬評価書 (2018)、農薬抄録 (2010)、HSDB (Accessed Dec. 2020))。(3)ほ乳類培養細胞(CHO)を用いた遺伝子突然変異試験において陰性の報告がある(食安委 農薬評価書 (2018)、農薬抄録 (2010)、HSDB (Accessed Dec. 2020))。(4)ほ乳類培養細胞(CHO)を用いた染色体異常試験において陰性の報告がある(食安委 農薬評価書 (2018)、農薬抄録 (2010)、HSDB (Accessed Dec. 2020))。
発がん性	【分類根拠】(1)～(4)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)国内外の分類機関による既存分類としては、EPA で NL(Not Likely To Be Carcinogenic To Humans)に分類されている(EPA Annual Cancer Report (2019):1999 年分類)。(2)ラットを用いた 2 年間混餌投与による慢性毒性/発がん性併合試験において、最高用量(20,000 ppm)の雌

メトキシフェノジド	
	で肝細胞腺腫の発生頻度の有意な増加がみられた(全動物で 5.7%)が、変異肝細胞巣の増加等を伴わず、発生頻度が背景データの範囲内(1.4%~21.7%)であったことから、偶発的な変化と考えられた。この他、低及び中用量群の雌で乳腺腺がんの有意な増加がみられたが、用量相関性が認められず、発生頻度が背景データの範囲内であったことから、偶発的な変化と考えられた。発がん性は認められいと結論された(食安委 農薬評価書(2018)、農薬抄録(2010))。(3)マウスを用いた 18 ヶ月間混餌投与による発がん性試験において、限量量(1,000 mg/kg/day)を超える 7,000 ppm まで投与により頻度が増加した腫瘍性病変はなく、発がん性は認められなかった(食安委 農薬評価書(2018)、農薬抄録(2010))。(4)ラットの慢性毒性/発がん性併合試験において、中用量以上で発生頻度が増加した甲状腺 C 細胞腺腫及び肝細胞腺腫は本物質投与による影響と考えられ、発がん性は“Carc. 2”とすべきとの検討もされたが、これらは投与による影響ではないと結論された。マウスでは発がん性は認められなかった(EFSA(2017))。
生殖毒性	【分類根拠】(1)~(3)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ラットを用いた混餌投与による二世代生殖毒性試験(GLP)において、繁殖能に対する影響は認められなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018)、農薬抄録(2010))。(2)ラットを用いた強制経口投与による発生毒性試験(GLP、妊娠 6~15 日)において、催奇形性は認められなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018)、農薬抄録(2010))。(3)ウサギを用いた強制経口投与による発生毒性試験(GLP、妊娠 7~19 日)において、催奇形性は認められなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018)、農薬抄録(2010))。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	【分類根拠】(1)~(5)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ラットを用いた単回経口投与試験において、5,000 mg/kg(区分該当しない範囲)で死亡例はなく、雄に下痢(投与 2 時間後 1 例)、糞中に白色物質がみられたのみとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018))。(2)マウスを用いた単回経口投与試験において、5,000 mg/kg(区分該当しない範囲)で死亡例及び症状はみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018))。(3)ラットを用いた単回経皮投与試験において、5,000 mg/kg(区分該当しない範囲)で死亡例及び症状はみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018))。(4)ラットを用いた単回吸入(粉塵、4 時間)において、4.3 mg/L(区分 2 の範囲)で死亡例及び症状はみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018))。(5)ラットを用いた単回経口投与試験(急性神経毒性試験)において、2,000 mg/kg(区分 2 の範囲)で急性神経毒性はみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018))。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	【分類根拠】(1)~(8)より、経口、経皮経路では区分に該当しない。ただし、吸入経路での情報がなく、データ不足のため分類できない。【根拠データ】(1)ラットを用いた混餌投与による 90 日間経口投与試験において、区分 2 までの用量範囲で毒性所見はみられず、5,000 ppm 以上(353 mg/kg/day(雄)、379 mg/kg/day(雌)、区分該当しない範囲)で肝臓影響がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018))。(2)マウスを用いた混餌投与による 90 日間経口投与試験において、7,000 ppm(1,150 mg/kg/day(雄)、1,740 mg/kg/day(雌)、区分該当しない範囲)までの用量で、毒性所見はみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018))。(3)イヌを用いた混餌投与による 90 日間経口投与試験において、区分 2 までの用量範囲で毒性所見はみられず、5,000 ppm 以上(198 mg/kg/day(雄)、209 mg/kg/day(雌)、区分該当しない範囲)で雄に血液影響がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018))。(4)ラットを用いた混餌投与による 90 日間亜急性神経毒性試験において、20,000 ppm(1,320 mg/kg/day(雄)、1,580 mg/kg/day(雌)、区分該当しない範囲)までの用量で、亜急性神経毒性はみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018))。(5)ラットを用いた 28 日間亜急性経皮毒性試験(6 時間/日、5 日/週、計 20 日)において、最高用量の 1,000 mg/kg/day(90 日換算: 222 mg/kg/day、区分該当しない範囲)まで毒性所見はみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018))。(6)イヌを用いた混餌投与による 1 年間慢性毒性試験において、3,000 ppm 以上(106 mg/kg/day(雄)、111 mg/kg/day(雌)、区分該当しない範囲)で血液影響がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018))。(7)ラットを用いた混餌投与による 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験において、8,000 ppm 以上(411 mg/kg/day(雄)、491 mg/kg/day(雌)、区分該当しない範囲)で血液、肝臓、甲状腺への影響等がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018))。(8)マウスを用いた混餌投与による 18 ヶ月間発がん性試験において、最高用量の 7,000 ppm(350 mg/kg/day(雄)、350 mg/kg/day(雌)、区分該当しない範囲)まで毒性所見はみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書(2018))。【参考データ等】(9)各種毒性試験結果から、メトキシフェノジド投与による影響は、主に血液(貧血)、肝臓(門脈周囲性肝細胞肥大等:ラット)及び腎臓(腎盂上皮細胞過形成等:ラット)に認められた(食安委 農薬評価書(2018))。

メトキシフェノジド	
誤えん有害性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

メトキシフェノジド	
水生環境有害性 短期(急性)	データなし
水生環境有害性 長期(慢性)	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物)
- : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装
- : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送(IMDG)

- 国連番号 (IMDG)
- : 非該当
- 正式品名 (IMDG)
- : 非該当
- 容器等級(IMDG)
- : 非該当
- 輸送危険物分類 (IMDG)
- : 非該当

航空輸送(IATA)

- 国連番号 (IATA)
- : 非該当
- 正式品名 (IATA)
- : 非該当
- 容器等級 (IATA)
- : 非該当
- 輸送危険物分類 (IATA)
- : 非該当

- 海洋汚染物質
- : 非該当

国内規制

- 海上規制情報
- : 非該当
- 航空規制情報
- : 非該当

- 特別な輸送上の注意
- : 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

15. 適用法令

国内法令

- 労働安全衛生法
- : 非該当
- 毒物及び劇物取締法
- : 非該当
- 消防法
- : 非該当
- 外国為替及び外国貿易法
- : 輸出貿易管理令別表第1の16の項
- 化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)
- : 第2種指定化学物質(法第2条第3項、施行令第2条別表第2)
1-ターシャリーブチル-1-(3, 5-ジメチルベンゾイル)-2-(3-メトキシ-2-メチルベンゾイル)ヒドラジン(別名メトキシフェノジド)(管理番号: 807)(100%)

16. その他の情報

参考文献

- : 17625 の化学商品(化学工業日報社)
- 国際化学物質安全性カード(ICSC)
- 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)
- ERG2024 版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)

その他の情報

- : この SDS は林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。